

岡山県感染症週報 2026 年第 36 週 (8 月 31 日 ~ 9 月 6 日)

9 月 24 日~30 日は「結核・呼吸器感染症予防週間」
および「非結核性抗酸菌症啓発週間」です

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

◆2026 年 第 36 週 (8 / 31 ~ 9 / 6) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況 (第 36 週届出分)

第 34 週	5 類感染症	梅毒	2 名 (10 代 男 1、20 代 男 1)
第 35 週	4 類感染症	レジオネラ症	1 名 (50 代 男)
	5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1 名 (幼児 男)
		梅毒	1 名 (50 代 男)
第 36 週	2 類感染症	結核	4 名 (20 代 女 3、90 代 男 1)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4 名 (O103 : 20 代 男 1、O121 : 60 代 男 1、O157 : 幼児 女 1、小学生 女 1)
	4 類感染症	日本紅斑熱	1 名 (70 代 女)
		レジオネラ症	1 名 (40 代 男)
	5 類感染症	アメーバ赤痢	1 名 (40 代 男)
		梅毒	4 名 (20 代 男 2、40 代 男 1、80 代 男 1)
		百日咳	1 名 (小学生 男)

食中毒注意報
発令中!



© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数 : ARI 定点 50、小児科定点 28、眼科定点 12、STD 定点 18、基幹定点 5

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 100 名 (定点あたり 2.00 人) の報告がありました。
- 急性呼吸器感染症 (ARI) は、県全体で 2,091 名 (定点あたり 41.82 人) の報告がありました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多くなっています。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 100 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 1.68 → 2.00 人)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#) をご覧ください。
2. [急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#) は、県全体で 2,091 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 38.28 → 41.82 人)。詳しくは、「[☆急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ [『急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報』](#) をご覧ください。
3. [腸管出血性大腸菌感染症](#) は、2026 年第 36 週に 4 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 65 名となりました (2025 年の同時期 : 56 名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!』](#) をご覧ください。
4. [日本紅斑熱](#) は 2026 年第 36 週に 1 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 8 名となりました (2025 年の同時期 : 14 名)。ダニが媒介する感染症として、他に [重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) や [つつが虫病](#) などがあります。これらは、病原体を保有するツツガムシまたはマダニに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については [コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」](#) をご覧ください。
5. [梅毒](#) は、2026 年第 36 週に 4 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 120 名となりました (2025 年の同時期 : 185 名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『梅毒について』](#) をご覧ください。

9月24日～30日は『結核予防週間』です

～ 令和の日本にも、結核はあります（結核予防週間標語） ～

結核は過去の病気ではありません。日本では今でも年間 **9,000 名以上**の新しい患者が報告され、**1,400 名以上が命を落としている** 重大な感染症です。結核患者の多くが高齢者で、新たに結核患者として登録された方のうち **60 歳以上の方の割合が約 6 割**に上っています。一方で、若年層（特に 20 歳代）の新登録患者数が外国生まれの患者の増加によって増えていることも注目されます。

毎年 **9 月 24 日～30 日**は「**結核予防週間**」です。今一度、この機会に結核について理解を深めましょう。岡山県では、各保健所での啓発や相談など各種活動に取り組んでいます。

結核についてのご相談は、管轄の保健所へ → [岡山県保健所管轄区域案内（厚生労働省）](#)

たとえば、このようなことに心当たりはありませんか？



© 岡山県「ももっち・うらっち」

- ☑ **痰のからむ咳が 2 週間以上**続いている。
- ☑ **微熱・身体のだるさが 2 週間以上**続いている。

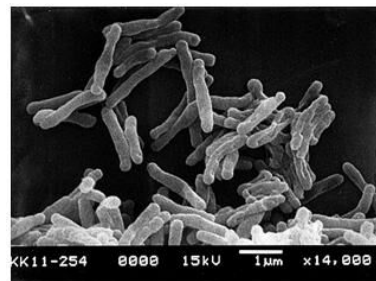


このような症状が続いたら、**結核**かもしれません。
早めに医療機関を受診し、**いつもの風邪と違うところ**を医師に伝えましょう。

注）高齢者の方は典型的な症状が出ない場合もあります。定期的な健診が重要です。

【結核とは】

結核菌が体の中に入ることによって起こる感染症です。患者のくしゃみや咳の際に、体外に排出された結核菌が空気中に長時間漂い、それを周りの人が吸い込むことによって感染します（飛沫核感染）。感染してもほとんどの場合は免疫で抑えられますが、吸い込んだ結核菌の量が多かったり、免疫が低下していたりする場合は発病することがあります。多くの場合、肺結核として発症し、咳、痰、微熱が典型的な症状です。胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振などを伴うこともあります。初期には無症状のこともあります。肺以外のリンパ節、腎臓、骨、腸、脳など様々な臓器に病巣を作ることがあります。



結核菌の電子顕微鏡写真：公益財団法人結核予防会結核研究所疫学情報センターホームページより

【結核の予防接種や健診を受けましょう】

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると重症化しやすいため、予防接種を行うことが重要です。生後 1 歳までには、必ず BCG ワクチンを接種するようにしましょう。

（予防接種については、お住まいの市町村にお問い合わせください。）

また、結核の早期発見のため、職場や地域の健康診断を積極的に活用し、1 年に 1 回は健診を受けましょう。

[「BCG ワクチン」（厚生労働省）](#)

< 一般 向 け > [結核について（公益財団法人 結核予防会 結核研究所）](#)

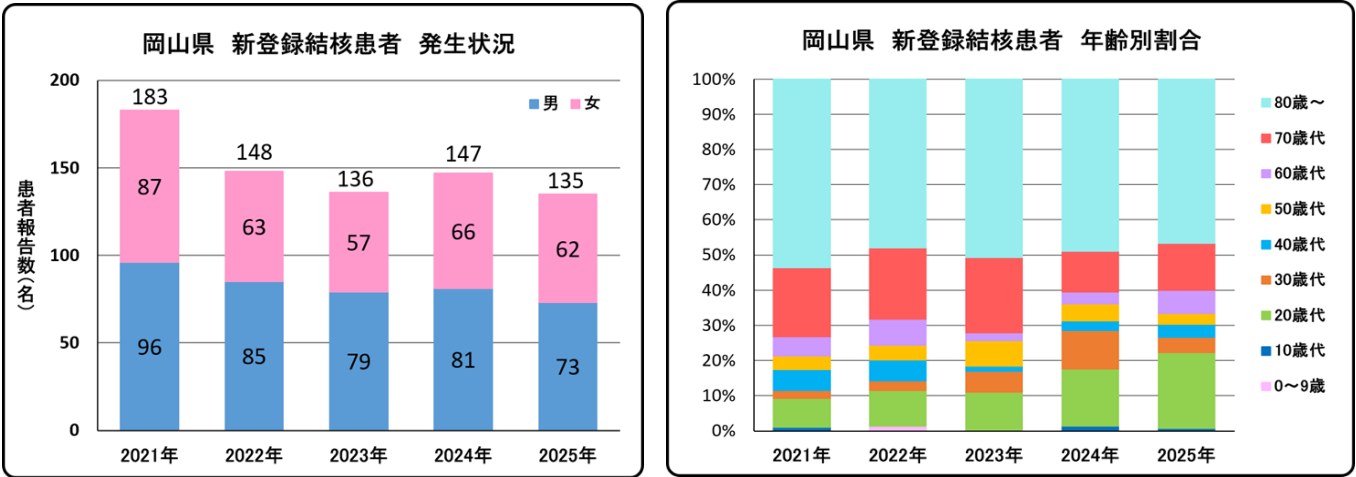
< 医療従事者向け > [結核医療相談・技術支援センターを開設しています！（岡山県疾病感染症対策課）](#)
[結核（岡山県感染症情報センター）](#)

結核の発生状況

【2025 年の岡山県の発生状況】

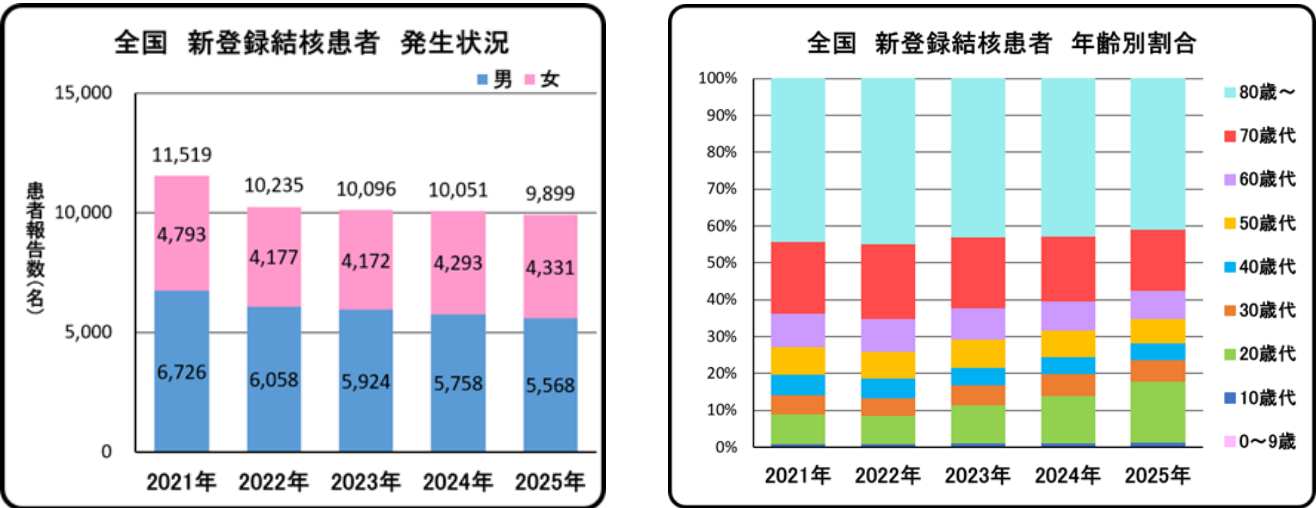
2025 年の岡山県で新たに登録された結核患者（新登録結核患者）は 135 名で、2024 年の 147 名から微減しました。2025 年の岡山県の結核り患率（人口 10 万あたり）は 7.5 と、2024 年の 8.0 から 0.5 減少しました。2025 年は 2024 年より減少しましたが、引き続き注意が必要です。

年齢別では 80 歳以上が最も多く新登録結核患者の約半数を占めていますが、若年層（特に 20 歳代）が占める割合の増加も見られます。



【2025 年の全国の結核発生状況】

全国の新登録結核患者は 9,899 名で、2024 年の 10,051 名とほぼ同数でした。年齢別では、60 歳以上の新登録結核患者が全体の 60%以上を占めている状態が続いています。日本は、2025 年の結核り患率が 8.0 と、前年から 0.1 減少となっています。2021 年に中まん延国から低まん延国（10 以下）となり、2025 年も継続しています。都道府県別の結核り患率は、大阪府（13.4）が最も高く、次いで徳島県（10.5）、岐阜県（10.4）の順となっており、岡山県（7.5）は全国で 24 番目となっています。



9月24日～30日は『呼吸器感染症予防週間』です

～ 正しく知ろう、呼吸器感染症のコト（呼吸器感染症予防週間標語）～

新型コロナウイルス感染症をはじめとした呼吸器感染症は、空気を介して広がり、大流行を起こすことから世界的な課題となっています。

呼吸器感染症について正しい知識を広め、予防に取り組むため、令和6年度から「結核予防週間」と同時期の9月24日～30日を「呼吸器感染症予防週間」としています。

呼吸器感染症には新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザ、RSウイルス感染症、細菌性肺炎などがあります。これらの呼吸器感染症の多くは感染した人から咳などで体外に排出された飛沫を吸い込むことで感染します。

これから呼吸器感染症が流行する秋・冬を迎えますが、マスク着用を含む咳エチケット、手洗い・手指消毒、換気など基本的な感染対策を心がけ、呼吸器感染症を予防しましょう。



© 岡山県「うらっち」

9月24日～30日は『非結核性抗酸菌症啓発週間』です

～ 長引く咳に、NTM 症という視点を（非結核性抗酸菌症啓発週間標語）～

非結核性抗酸菌症（NTM 症）は、近年、結核のり患率を上回り、増加傾向にあることから、令和8年度から、「結核予防週間」及び「呼吸器感染症予防週間」と同時期に「非結核性抗酸菌症啓発週間」を新設し、正しい知識の普及を進めています。

NTM 症は、長引く咳や痰、発熱、倦怠感、体重減少などのさまざまな症状がみられますが、結核とは異なり、通常は人から人へ感染しません。咳や痰が長引く、息苦しさが続くなどの症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

[非結核性抗酸菌症（NTM 症）（厚生労働省）](#)

[結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間（厚生労働省）](#)